

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名

② 大学等の設置者 ③ 設置形態

④ 所在地

⑤ 申請するプログラム名称

⑥ プログラムの開設年度 年度 ⑦ 応用基礎レベルの申請の有無

⑧ 教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

⑨ プログラムの授業を教えている教員数 人

⑩ 全学部・学科の入学定員 人

⑪ 全学部・学科の学生数(学年別) 総数 人

1年次	<input type="text" value="745"/> 人	2年次	<input type="text" value="794"/> 人
3年次	<input type="text" value="756"/> 人	4年次	<input type="text" value="776"/> 人
5年次	<input type="text" value=""/> 人	6年次	<input type="text" value=""/> 人

⑫ プログラムの運営責任者

(責任者名) (役職名)

⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑮ 申請する認定プログラム

連絡先

所属部署名	羽島教務課	担当者名	林 佳孝
E-mail	h-kyomu@shotoku.ac.jp	電話番号	058-279-3493

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

教育学部、外国語学部、看護学部では、プログラムを構成する授業科目である教養基礎科目「数学(データサイエンス入門)」2単位を修得することを修了要件とします。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
数学(データサイエンス入門)	2	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
数学(データサイエンス入門)	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
数学(データサイエンス入門)	2	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
数学(データサイエンス入門)	2	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
数学(データサイエンス入門)	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	第2回の講義テーマ「現代社会におけるデータサイエンス」の中で、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会等)を知り、その背景と歴史を学ぶ。
	1-6	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について理解する。
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、データ分析のためのデータの取得・管理方法について解説し、演習を通してe-StatやRESASからのデータの取得の仕方や加工方法について学ぶ。
	1-3	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、マーケティングやサービスにおけるデータの利活用の例を紹介し、チャットボット等を体験させながら、データの利活用が日常生活の課題を解決するツールとなることを学ぶ。

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	第5回、第6回の講義テーマ「データサイエンスの手法1」、「データサイエンスの手法2」の中で、データ分析の単回帰分析、ベイズ推論及び散布図などのデータの可視化について学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いや疑似相関について触れ、データ分析で注意すべき点について学ぶ。人工知能(AI)については汎用型AIと特化型AIの違いについて学ぶ。
	1-5	第7回の講義テーマ「データサイエンスの手法3」の中で、単回帰分析の応用事例として需要予測を紹介し、マーケティングへの活用について学ぶ。
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	第4回の講義テーマ「データ利活用における留意事項」の中で、GDPRが定める主要な権利やELSIにも触れ、データ活用の負の側面について理解する。
	3-2	第13回の講義テーマ「データ分析で注意すべき点」の中で、情報セキュリティについて、リスクの話を変えながら解説し、機密性、完全性、可用性について学び、情報漏えいなどによるセキュリティ事故の事例を紹介するとともに、セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	第6回の講義テーマ「統計グラフ(ヒストグラム、箱ひげ図)」の中で、データの種類、データの代表値と散布度、相関について学ぶ。
	2-2	第8回、第10回、第12回の講義テーマ「Excelによる代表値、散布度、5数要素の求め方」、「Excelによる統計グラフの作成方法」、「Excelによる散布図の作成、相関係数、回帰直線の求め方」の中で、表計算ソフトExcelを使い、代表値や散布度、相関係数の求め方、散布図やヒストグラム、箱ひげ図のグラフ作成の演習を通して学びを深める。
	2-3	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、公的統計を利用し、データをダウンロードし、Excelを利用して普通出生率や合計特殊出生率などを求めることで、データの加工や統計指標の示す意味を理解する。

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・AIを道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/ai.php>

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

経済情報学部では、プログラムを構成する授業科目である教養基礎科目「統計入門」2単位を修得することを修了要件とします。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
統計入門	2	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
統計入門	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
統計入門	2	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
統計入門	2	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
統計入門	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	第2回の講義テーマ「現代社会におけるデータサイエンス」の中で、現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会等)を知り、その背景と歴史を学ぶ。
	1-6	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について理解する。
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、データ分析のためのデータの取得・管理方法について解説し、演習を通してe-StatやRESASからのデータの取得の仕方や加工方法について学ぶ。
	1-3	第3回の講義テーマ「データサイエンスの活用事例」の中で、マーケティングやサービスにおけるデータの利活用の例を紹介し、チャットボット等を体験させながら、データの利活用が日常生活の課題を解決するツールとなることを学ぶ。

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	第5回、第6回の講義テーマ「データサイエンスの手法1」、「データサイエンスの手法2」の中で、データ分析の単回帰分析、ベイズ推論及び散布図などのデータの可視化について学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いや疑似相関について触れ、データ分析で注意すべき点について学ぶ。人工知能(AI)については汎用型AIと特化型AIの違いについて学ぶ。
	1-5	第7回の講義テーマ「データサイエンスの手法3」の中で、単回帰分析の応用事例として需要予測を紹介し、マーケティングへの活用について学ぶ。
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	第4回の講義テーマ「データ利活用における留意事項」の中で、GDBRが定める主要な権利やELSIにも触れ、データ活用の負の側面について理解する。
	3-2	第13回の講義テーマ「データ分析で注意すべき点」の中で、情報セキュリティについて、リスクの話を変えながら解説し、機密性、完全性、可用性について学び、情報漏えいなどによるセキュリティ事故の事例を紹介するとともに、セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	第6回の講義テーマ「統計グラフ(ヒストグラム、箱ひげ図)」の中で、データの種類、データの代表値と散布度、相関について学ぶ。
	2-2	第8回、第10回、第12回の講義テーマ「Excelによる代表値、散布度、5数要素の求め方」、「Excelによる統計グラフの作成方法」、「Excelによる散布図の作成、相関係数、回帰直線の求め方」の中で、表計算ソフトExcelを使い、代表値や散布度、相関係数の求め方、散布図やヒストグラム、箱ひげ図のグラフ作成の演習を通して学びを深める。
	2-3	第14回の講義テーマ「公的統計の利用」の中で、公的統計を利用し、データをダウンロードし、Excelを利用して普通出生率や合計特殊出生率などを求めることで、データの加工や統計指標の示す意味を理解する。

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・AIを道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/ai.php>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
教育学部	330	1320	21	21										21	2%	
外国語学部	150	600	30	30										30	5%	
看護学部	80	320	1	1										1	0%	
経済情報学部	150	600	21	21										21	4%	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
														0	#DIV/0!	
合計	710	2840	73	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	3%	

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

教養教育委員会規程

② 体制の目的

建学の精神を根幹とした学部横断型の教養教育「Yawaragi Basis」の推進を図ることを目的とした委員会を設置し、(1) 教養教育カリキュラムの研究・開発、(2) 教養教育担当教員(非常勤講師を含む。)の選考、(3) 教養教育の授業編成、(4) 教養教育の点検・評価等を行っている。岐阜聖徳学園大学数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラムを構成する科目は、教養基礎科目として開設しており、他の教養教育とともに本プログラムについても改善・進化を図っている。ただし、本プログラムの改善・進化については、専門的な知識も必要となることから、教養教育委員会内に別途ワーキンググループを設け、ワーキンググループで検討された内容を本委員会で審議している。

③ 具体的な構成員

- | |
|---|
| (1) 学長が指名する教育職員
・教育学部 教授 吉田俊和 |
| (2) 各学部(短期大学部を含む。)選出の教育職員
・教育学部 教授 宮野裕
・外国語学部 教授 熊沢秀哉
・経済情報学部 教授 吉田夏彦
・看護学部 教授 西田倫子
・短期大学部 専任講師 木戸啓絵 |
| (3) 教務部長
・教育学部 教授 高村和代 |
| (4) 羽島教務課長、岐阜教務課長
・羽島教務課長 林佳孝
・岐阜教務課長 今井延幸 |

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	3%	令和4年度予定	100%	令和5年度予定	100%
令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	2,840

具体的な計画

全学的な履修者数・履修率を向上させるために、「学ぶ楽しさ」、「学ぶことの意義」を第一に考え、文系・理系を問わずすべての学部、すべての学年の学生が履修できるプログラムとすることにより、全学的な履修者数、履修率の向上を目指している。令和4年度からはプログラムを構成する1科目を全学必修科目とする新たなプログラムを構築し、履修者数・履修率を向上させる予定である。
--

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「数学(データサイエンス入門)」は教育学部、外国語学部、看護学部共通の教養基礎科目として開設しており、学部に関係なく希望する学生全員が受講可能となるよう考慮して時間割を作成している。「統計入門」は経済情報学部の教養基礎科目として開設しており、希望する学生全員が受講可能となるよう考慮して時間割を作成している。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修要項、時間割表、履修管理システム等を用いて、履修に必要な情報が確認できるようにしている。また年度はじめのオリエンテーションにおいて科目の案内を行い、履修を推奨している。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

専任教員による指導教員を配置して、学生の履修や修学についての相談を受けている。また教務課でも事務職員が履修などのサポートを行っている。コンピュータの利用については学生が自由に利用できるコンピュータを用意しているほか、BYODを推進している。また、図書館で関連分野の学生向け書籍を整備している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内に質問を受け付けているほか、学内LMSを用いて授業時間外でも質問を受け付け、回答を行っている。またオフィスアワーを設け、受講生が直接教員の研究室を訪ねて学習指導が受けられるようにしている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラム開始初年度である2021年度の履修者は72名であり、このうち修了要件を満たし本教育プログラムを修了した学生は63名であった。履修者の学部別の内訳を見ると、教育学部30名、外国語学部20名、看護学部1名、経済情報学部21名であり、対象としたすべての学部の学生から本教育プログラムの履修があったことがわかる。また、学年別の内訳を見ると1年生40名、2年生18名、3年生8名、4年生7名であった。これらのことから、すべての学部、すべての学年の学生が本教育プログラムを履修したことがわかり、概ね成果が上げられた。</p> <p>改善に向けた取り組みとしては、本教育プログラムを構成する科目を必修科目とすることも検討しながら、履修者数・履修率向上を図ることが挙げられる。また、課題提出物の内容等から学生の理解度を把握し、理解が不足している部分を補足することによって、本教育プログラムを修了する学生を増やしていくことも検討している。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムを構成する科目の到達目標については、授業時の課題提出物及び学生による授業評価アンケートの〈理解度について〉等により学生の理解度を把握するすることができ、授業内容や授業方法の改善を図っている。</p> <p>本教育プログラムの学修成果については、本プログラムを修了した学生がその後、どのような科目を履修して、どのような成績を取めたか、卒業後にどのような進路に進んだかなどを、就職委員会等と連携して経時的に調査していく。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>本教育プログラム受講者に対して「学生による授業評価アンケート」を実施しており、学生の理解度や学修意欲等を把握し、授業内容及び方法の改善を図っている。 本教育プログラムの理解度については、モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に関連する部分の理解度を測る設問を設け、授業における学生の理解度を把握し、分析している。 分析の結果、モデルカリキュラムの「導入」に関連する部分の理解度を測る2つの設問「データ・AIの利活用について、社会の変化に伴う最新の動向と必要性を理解した」と「様々なデータ・AIの利活用において、どのような技術(手法)がどういう目的で用いられているか理解した」に回答した学生のうち、7割以上の学生が「非常にそう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答していることがわかった。また、モデルカリキュラムの「心得」と「基礎」に関連する設問についても、おおよそ6割から7割の学生が「非常にそう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答していることがわかった。これらのことから、学生の内容の理解度は高いと考えられる。 改善に向けた取り組みとして、理解度が低い部分については授業内容や授業方法を改善するなどして、理解度の向上を図ることが挙げられる。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本教育プログラム受講者に対して「学生による授業評価アンケート」を実施しており、学生の理解度や学修意欲等とともに、後輩学生や他の学生への推奨度について確認している。 授業評価アンケートの「今回の講義を友人や後輩に推奨したいと思いますか。」という設問に回答した学生のうち、36%以上の学生が「非常にそう思う」と、23%以上の学生が「どちらかといえばそう思う」と回答していることから、本教育プログラムの後輩等他の学生への推奨度は高いと考えられる。 改善に向けた取り組みとして、本教育プログラムを修了した学生にインタビューを行い、学生の声としてWebページなどで公開し、後輩等他の学生の履修を促すことを検討している。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムを構成する科目「数学(データサイエンス入門)」「統計入門」(選択科目)については、岐阜聖徳学園大学数理・データサイエンス・AI教育方針や授業評価アンケート、地元産業界等からの意見も踏まえ、令和4年度から新たな科目を開設し、全学必修科目を加えたプログラムを再設計することで、全学生が履修するプログラムとすることを検討し、決定している。 「学ぶ楽しさ」、「学ぶことの意義」を第一に考え、文系・理系を問わずすべての学部、すべての学年の学生が履修できるプログラムとすることにより、全学的な履修者数、履修率の向上を目指した。その結果、プログラム開始初年度である2021年度の履修者数は72名であり、すべての学部、すべての学年の学生からの履修があった。全学的な履修者数を向上させるために、令和4年度からは新たなプログラムを構築する。 改善に向けた取り組みとして、本教育プログラムを構成する科目を必修科目とすることにより、履修者数・履修率向上を図ることを目指している。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>学生の就職状況と履修状況を確認することにより、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先については把握することが可能である。また、教育プログラムを修了した卒業生の活躍状況や企業等の評価については、就職課が把握している卒業生の活躍状況を収集するとともに、本学が実施する「企業向けアンケート(本学出身者に関するアンケート)」における「本学出身者に関して抱いている印象」に関する設問からの企業等から本学出身者に対する評価を把握できるよう検討している。</p> <p>2021年度より開始した教育プログラムであり、教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価の情報が得られないことから現状についての考察を行う。2020年度に全学で企業・団体に就職した学生は246名であり、そのうち数理・データサイエンス・AIに関連すると考えられる情報・通信系の企業等に就職した学生は20名(8.1%)であった。今後は、本プログラムを修了した学生がどのような進路を選択するかについて調査を続けていく予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学では、地方自治体や地元産業界等と各種要望や地域の課題を共有するとともに、今後の経済・社会の発展をもたらす高等教育の在り方について意見聴取することにより、本学の自己点検・評価及び教育研究水準の向上に資することを目的とした「地域連携協議会」を毎年実施している。</p> <p>社会人の学び直しに関する内容や数理・データサイエンス・AI教育については、「地域連携協議会」において、意見聴取を行っている。収集した意見については、プログラムを改善・進化させるための委員会(教養教育委員会)やプログラムの自己点検・評価を行う委員会(全学教務委員会)において、プログラムの検証・改善に活用している。</p> <p>2021年6月30日に開催された「地域連携協議会」において、本学が連携協定を締結する産業界、地方公共団体等に対して、「学生が身に付けるべきAI・データサイエンス等に関する能力」や「企業等におけるAI・データサイエンス等の活用事例」に関する意見聴取を行った。意見聴取内容については、「教養教育委員会(11月24日開催)」、「全学教務委員会(9月8日開催)」において、プログラムの検証に活用した。</p> <p>また、本学では、令和4年度から学内にデジタルトランスフォーメーション推進センターを設置し、数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラムを再構築する予定である。本意見聴取内容については、新たなプログラム構築に向けて活用している。</p> <p>今後もこの取り組みを続け、産業界からの意見を本教育プログラムの改善に役立ていく予定である。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業において、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分であるデータサイエンスの活用事例を紹介することで学生の興味関心を高め、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させている。また、授業時の課題提出物や学生による授業評価アンケートの〈授業内容について〉及び〈理解度について〉等を比較・検討することで授業改善を図っている。</p> <p>データサイエンスの活用事例を紹介することで学生の興味関心を高め、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることができたこと、また提出物の内容や授業評価アンケートの結果を授業改善に役立てることができたことから、概ね成果を上げることができた。</p> <p>学生が興味関心を示すような実例を用いることによって、数理・データサイエンス・AIの「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させられるよう、今後も検討を続けていく。</p> <p>また、FD活動の中で、数理・データサイエンス・AI教育に関して「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」をテーマに意見交換することも検討する。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>内容・水準の維持・向上は、授業においてモデルカリキュラム(リテラシーレベル)の内容がシラバスに盛り込まれていることを確認するとともに、授業時の課題提出物及び学生による授業評価アンケートの〈理解度について〉等から、学生の理解度を把握し、講義の内容・実施方法の検討を行い、分かりやすい授業となるよう工夫している。</p> <p>提出物の内容や授業評価アンケート結果から、学生の理解度を把握し、「分かりやすい」授業となるよう改善することができたことから、概ね成果を上げることができた。</p> <p>全学向けであることにも配慮して、数学が苦手な学生にとってもイラストや具体例を用いながら「わかりやすい」授業となるように、FD活動を含めて今後も検討を続けていく。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/ai.php>

科目名	数学			担当教員	齊藤 善弘	
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	YB1D705	
期待される学修成果	基礎教養 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	統計データや統計グラフを正しく解釈でき、データ分析に役立てることができる。					
授業の概要	データサイエンスの基礎的概念を理解し、表計算ソフトExcelを使いながら、記述統計を中心にデータリテラシーについて学ぶ。					

授業計画	
第1回	はじめに；入門テスト
第2回	代表値；現代社会におけるデータサイエンス
第3回	散布度；データサイエンスの活用事例
第4回	散布図と相関係数；データ活用における留意事項
第5回	度数分布表；データサイエンスの手法1
第6回	統計グラフ（ヒストグラム、箱ひげ図）；データサイエンスの手法2
第7回	コンピュータシステムとExcel操作の基礎；データサイエンスの手法3
第8回	Excelによる代表値、散布度、5数要約の求め方
第9回	Excelによる度数分布表の作成方法
第10回	Excelによる統計グラフの作成方法
第11回	度数分布表から代表値、散布度の求め方
第12回	Excelによる散布図の作成、相関係数、回帰直線の求め方
第13回	データ分析で注意すべき点
第14回	公的統計の活用
第15回	まとめ

事前学修	2時間	前回までの配付資料に目を通しておく。
事後学修	2時間	毎回の演習課題を繰り返し練習しておくこと。
フィードバックの方法	提出課題についてはつぎの授業時に解説するか、あるいはLMSに模範解答を載せフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	第1回:15、第2回:5、第3回:20
上記以外の試験・平常点評価	60%	毎回提出する課題
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	竹村彰通 他編 データサイエンス入門 学術図書出版社 2019年 ISBN978-4-7806-0701-7			

科目名	統計入門			担当教員	齊藤 善弘	
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	YB1D0207	
期待される学修成果	基礎教養 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	統計データや統計グラフを正しく解釈でき、データ分析に役立てることができる。					
授業の概要	データサイエンスの基礎的概念を理解し、表計算ソフトExcelを使いながら、記述統計を中心にデータリテラシーについて学ぶ。					

授業計画	
第1回	はじめに；入門テスト
第2回	代表値；現代社会におけるデータサイエンス
第3回	散布度；データサイエンスの活用事例
第4回	散布図と相関係数；データ活用における留意事項
第5回	度数分布表；データサイエンスの手法1
第6回	統計グラフ（ヒストグラム、箱ひげ図）；データサイエンスの手法2
第7回	コンピュータシステムとExcel操作の基礎；データサイエンスの手法3
第8回	Excelによる代表値、散布度、5数要約の求め方
第9回	Excelによる度数分布表の作成方法
第10回	Excelによる統計グラフの作成方法
第11回	度数分布表から代表値、散布度の求め方
第12回	Excelによる散布図の作成、相関係数、回帰直線の求め方
第13回	データ分析で注意すべき点
第14回	公的統計の活用
第15回	まとめ

事前学修	2時間	前回までの配付資料に目を通しておく。
事後学修	2時間	毎回の演習課題を繰り返し練習しておくこと。
フィードバックの方法	提出課題についてはつぎの授業時に解説するか、あるいはLMSに模範解答を載せフィードバックを行う。	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎・竹村彰通編	講談社	978-4065238097	なし
参考資料	竹村彰通 他編 データサイエンス入門 学術図書出版社 2019年 ISBN978-4-7806-0701-7			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	第1回:15、第2回:5、第3回:20
上記以外の試験・平常点評価	60%	毎回提出する課題

履修要覧



Gifu Shotoku Gakuen

岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部

2021年度 履修要覧

教育学部

四年制学部共通事項

— 羽島キャンパス
教育学部
外国語学部
看護学部
— 岐阜キャンパス
経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

教育課程

開講年次欄の1・2・3・4は学年を示し、●・■・○の位置が左寄りは前期、右寄りは後期、中央は通年の開講を表します。

- ：週一回開講し、1セメスターで完結する科目
- ：週二回開講し、1セメスターで完結する科目
- ：週一回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目
- ☆：不定期に開講し、2セメスター（1年）で完結する科目（授業日は別途連絡します）

[注意]

前後期両方に●が付いている科目は時間割表で指定されたクラスで受講してください。また、やむを得ない事情により開講期を変更することがあります。また開講しない場合もありますので必ずその年度の時間割表を確認してください。

【建学の精神に関する科目】

開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
建学の精神に関する科目	宗教学Ⅰ	2	2		●				
	宗教学Ⅱ	2	2		●				
最低修得単位			4	0					
			4単位						

【教養基礎科目（Yawaragi Basis）】

YB科目群	学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
					必修	選択	1	2	3	4		
共に学ぶ	基礎力	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●					これらの科目についてはクラス分けがされているので、指定されたクラスで受講すること。
		基礎セミナーⅡ	演	1	1			●				
		スポーツⅠ	実	1	1		●					
	人文学	心理学概論	講	2			●	●				
		歴史学	講	2			●	●				
		社会学	講	2	2			●				
共に拓く	基礎力	ICT基礎	演	2	2		●					
		英語コミュニケーションⅠ	演	1	1		●					
	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅡ	演	1	1			●				
		英語コミュニケーションⅢ	演	1				●				
		英語コミュニケーションⅣ	演	1					●			
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		ドイツ語Ⅰ	演	1				●				
		ドイツ語Ⅱ	演	1					●			
		フランス語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		フランス語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		フランス語Ⅰ	演	1				●				
		フランス語Ⅱ	演	1					●			
		中国語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		中国語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		中国語Ⅰ	演	1				●				
		中国語Ⅱ	演	1					●			
		ポルトガル語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		ポルトガル語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		韓国語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
	韓国語コミュニケーションⅡ	演	1				●					
	人文学	映画学	講	2			●	●				
		日本文化論	講	2			●	●				
	社会科学	異文化論	講	2			●	●				
芸術論		演	1			●	●					
共に生きる	社会科学	ジェンダー論	講	2			●	●				
		哲学	講	2			●	●				
	自然科学	経済学	講	2			●	●				
		現代環境科学	講	2			●	●				
		数学	講	2			●	●				
		天文学	講	2			●	●				
複合領域	岐阜学	講	2			●	●					
	災害と危機管理	講	2			●	●					
共に支え合う	社会学	家族と社会保障	講	2			●	●				
		レクリエーション	講	2			●	●				
	複合領域	食生活論	演	1			●	●				
		健康科学	講	2			●	●				
		健康科学概論	講	2			●	●				
最低修得単位			10	6								
			16単位									

2021年度 履修要覧

外国語学部

四年制学部共通事項

— 羽島キャンパス
教育学部
外国語学部
看護学部
— 岐阜キャンパス
経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

教育課程

開講年次欄の1・2・3・4は学年を示し、●・■・○・☆の位置が左寄りは前期、右寄りは後期、中央は通年の開講を表します。

●：週1回開講し、1セメスターで完結する科目

○：週2回開講し、1セメスターで完結する科目

■：週1回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目

☆：不定期に開講し、2セメスター（1年）で完結する科目（授業日は別途連絡します）

[注意]

やむを得ない事情により開講期を変更することがあります。

また開講しない場合もありますので必ずその年度の時間割表を確認してください。

建学の精神に関する科目

開講授業科目		講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
				必修	選択	1	2	3	4	
建学の精神に関する科目	宗教学Ⅰ	講	2	2		●				
	宗教学Ⅱ	講	2	2		●				
最低修得単位				4	0					
				4単位						

教養基礎科目 (Yawaragi Basis)

YB科目群	学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考	
					必修	選択	1	2	3	4		
共に学ぶ	基礎力	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●					
		基礎セミナーⅡ	演	1	1			●				
		スポーツⅠ	実	1	1		●					
		スポーツⅡ	実	1	1			●				
		心理学概論	講	2			●	●				
	人文科学	歴史学	講	2			●	●				
		日本国憲法	講	2			●	●				
		キャリアプラン	講	2			●	●				
		社会科学	ICT基礎	演	2	2		●				
			英語コミュニケーションⅠ	演	1							
共に拓く	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅡ	演	1							外国語学部の学生は、以下の科目を履修することができない。「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」	
		英語コミュニケーションⅢ	演	1								
		英語コミュニケーションⅣ	演	1								
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		ドイツ語Ⅰ	演	1					●			
		ドイツ語Ⅱ	演	1						●		
		フランス語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		フランス語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		フランス語Ⅰ	演	1					●			
		フランス語Ⅱ	演	1						●		
		中国語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		中国語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		中国語Ⅰ	演	1					●			
		中国語Ⅱ	演	1						●		
	人文科学	ポルトガル語コミュニケーションⅠ	演	1			●				「言葉とコミュニケーション」開講科目のうち、ドイツ語・フランス語・中国語のいずれか1言語を選択し、同一言語で4単位を修得すること。	
		ポルトガル語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		韓国語コミュニケーションⅠ	演	1			●					
		韓国語コミュニケーションⅡ	演	1				●				
		映画学	講	2			●	●				
社会科学	日本文化論	講	2			●	●					
	異文化論	講	2			●	●					
複合領域	芸術論	演	1			●	●					
	ジェンダー論	講	2			●	●					
共に生きる	人文科学	哲学	講	2			●	●				
		経済学	講	2			●	●				
	社会科学	現代環境科学	講	2			●	●				
		数学	講	2			●	●				
	複合領域	天文学	講	2			●	●				
		岐阜学	講	2			●	●				
		災害と危機管理	講	2			●	●				
共に支え合う	社会科学	家族と社会保障	講	2			●	●				
		レクリエーション	講	2			●	●				
	複合領域	食生活論	演	1			●	●				
		健康科学	講	2			●	●				
		健康科学概論	講	2			●	●				
最低修得単位				10	8							
				18単位								

2021年度 履修要覧

看護学部

四年制学部共通事項

— 羽島キャンパス
教育学部
外国語学部
看護学部
— 岐阜キャンパス
経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

教育課程

開講年次欄の1・2・3・4は学年を示します。

- ：週一回開講し、半期で完結する科目
- ：週一回開講し、通年で完結する科目
- ・■の右の数字は、授業時間数を表します。

[注意]

やむを得ない事情により開講期を変更することがあります。

また、開講しない場合もありますので、必ずその年度の時間割表を確認してください。

建学の精神に関する科目

学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次								備考		
				必修	選択	1		2		3		4				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
建学の精神に関する科目	宗教学Ⅰ	講	2	2		●30										
	宗教学Ⅱ	講	2	2			●30									
最低修得単位				4	0											
				4単位												

教養基礎科目 (Yawaragi Basis)

YB科目群	学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次								備考	
					必修	選択	1		2		3		4			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共に学ぶ	基礎力	基礎セミナーⅠ	演	1	1		●30									指定されたクラスで受講すること。
		基礎セミナーⅡ	演	1	1			●30								
		スポーツⅠ	実	1	1		●30									
	人文科学	スポーツⅡ	実	1	1			●30								
		心理学概論	講	2			●30	●30								
	社会科学	歴史学	講	2			●30	●30								
日本国憲法		講	2			●30	●30									
		キャリアプラン	講	2		●30	●30									
共に拓く	基礎力	ICT基礎	演	2	2		●30								指定されたクラスで受講すること。	
		英語コミュニケーションⅠ	演	1	1		●30									
	言葉とコミュニケーション	英語コミュニケーションⅡ	演	1	1			●30								
		英語コミュニケーションⅢ	演	1					●30							
		英語コミュニケーションⅣ	演	1						●30						
		ドイツ語コミュニケーションⅠ	演	1			●30									
		ドイツ語コミュニケーションⅡ	演	1				●30								
		ドイツ語Ⅰ	演	1					●30							
		ドイツ語Ⅱ	演	1						●30						
		フランス語コミュニケーションⅠ	演	1			●30									
		フランス語コミュニケーションⅡ	演	1				●30								
		フランス語Ⅰ	演	1					●30							
		フランス語Ⅱ	演	1						●30						
		中国語コミュニケーションⅠ	演	1			●30									
		中国語コミュニケーションⅡ	演	1				●30								
		中国語Ⅰ	演	1					●30							
		中国語Ⅱ	演	1						●30						
		ポルトガル語コミュニケーションⅠ	演	1			●30									
		ポルトガル語コミュニケーションⅡ	演	1				●30								
		韓国語コミュニケーションⅠ	演	1			●30									
	韓国語コミュニケーションⅡ	演	1				●30									
	人文科学	映画学	講	2			●30	●30	●30	●30						1年次：これらの科目については、クラス分けがされているので、指定されたクラスで受講すること。
		日本文化論	講	2			●30	●30	●30	●30						
	社会科学	異文化論	講	2			●30	●30	●30	●30						
		芸術論	演	1			●30	●30	●30	●30						
	共に生きる	人文科学	ジェンダー論	講	2			●30	●30	●30	●30					
哲学			講	2			●30	●30	●30	●30						
社会科学		経済学	講	2			●30	●30	●30	●30						
		現代環境科学	講	2	2		●30	●30	●30	●30						
自然科学		数学	講	2			●30	●30	●30	●30						
		天文学	講	2			●30	●30	●30	●30						
複合領域	岐阜学	講	2			●30	●30	●30	●30							
	災害と危機管理	講	2			●30	●30	●30	●30							
共に支え合う	社会科学	家族と社会保障	講	2			●30	●30	●30	●30						
		レクリエーション	講	2			●30	●30	●30	●30						
	複合領域	食生活論	演	1			●30	●30	●30	●30						
		健康科学	講	2			●30	●30	●30	●30						
		健康科学概論	講	2				●30								
最低修得単位				10	11											
				21単位												

2021年度 履修要覧

経済情報学部

四年制学部共通事項

— 羽島キャンパス
教育学部
外国語学部
看護学部
— 岐阜キャンパス
経済情報学部

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

岐阜聖徳学園大学短期大学部

教育課程

- (1) 開講年次欄 1・2・3・4は学年を示し、●■☆○の位置が左寄りは前期、右寄りは後期、中央は通年の開講を表します。
 ●：週1回開講し、1セメスターで完結する科目。
 ■：週1回開講し、2セメスター（1年）で完結する科目
 ☆：不定期に開講し、2セメスター（1年）で完結する科目
 ○：再履修者を対象とした開講期を示す。
- (2) 講義区分欄の『講』は講義、『演』は演習、『実』は実技・実習科目を表します。
 (3) 各表の備考欄に留意してください。
 (4) やむを得ない事情により開講期を変更する場合や、非開講となる場合があります。
 必ずその年度の授業時間割表（履修の手引き）を確認してください。

建学の精神に関する科目

開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
建学の精神に関する科目	必修 宗教学Ⅰ	2	2		●				
	宗教学Ⅱ	2	2		●				
最低修得単位			4						
			4	4					

教養基礎科目

Y B 科目群	学則区分	開講授業科目	講義区分	単位数	履修単位		開講年次				備考		
					必修	選択	1	2	3	4			
教養基礎科目	共に学ぶ	基礎力	必修 基礎セミナーⅠ	演	1	1		●	○			○は再履修	
			基礎セミナーⅡ	演	1	1			●	○		○は再履修	
			スポーツⅠ	実	1	1		●					
			スポーツⅡ	実	1	1			●				
		人文科学	選択必修	心理学Ⅰ	講	2			●				
				心理学Ⅱ	講	2				●			
				歴史学Ⅰ	講	2			●				
				歴史学Ⅱ	講	2				●			
				日本国憲法	講	2				●			
				社会科学	英語Ⅰ	演	1	1		●			
	共に拓く	言葉とコミュニケーション	必修 英語Ⅱ	演	1	1			●				
			英語Ⅲ	演	1				●			外国語科目の選択必修2単位は、英語Ⅲ・Ⅳ、英語Ⅴ・Ⅵ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱから選択し履修すること。	
			英語Ⅳ	演	1					●			
			英語Ⅴ	演	1					●			
			英語Ⅵ	演	1					●			
			ドイツ語Ⅰ	演	1					●			
		ドイツ語Ⅱ	演	1					●				
		社会科学	選択必修	フランス語Ⅰ	演	1					●		
				フランス語Ⅱ	演	1					●		
				中国語Ⅰ	演	1					●		
				中国語Ⅱ	演	1					●		
				英語コミュニケーションⅠ	演	1				●			
				英語コミュニケーションⅡ	演	1				●			
				英語実務	演	2				●			
	外国文化事情AⅠ			講	2				●				
	外国文化事情AⅡ	講	2				●						
	外国文化事情AⅢ	講	2				●						
	外国文化事情AⅣ	講	2				●						
	外国文化事情BⅠ	講	2				●						
	外国文化事情BⅡ	講	2				●						
外国文化事情BⅢ	講	2				●							
外国文化事情BⅣ	講	2				●							
共に生きる	人文科学	文学Ⅰ	講	2			●						
		文学Ⅱ	講	2				●					
	自然科学	地理Ⅰ	講	2			●						
		地理Ⅱ	講	2			●						
		数学	講	2			●						
		数学活用	講	2				●					
共に支えあう	複合領域 社会科学	統計入門	講	2				●					
	複合領域 社会科学	法学	講	2			●						
		行動科学	講	2			●						
最低修得単位					8	10							
					18	18							

www.shotoku.ac.jp



G I F U
S H O T O K U
G A K U E N
U N I V .
2 0 2 2



岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部

Gifu Shotoku Gakuen

[羽島キャンパス]

〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地
TEL: 058-279-0804 (代)

[岐阜キャンパス]

〒500-8288 岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地
TEL: 058-278-0711 (代)



岐阜聖徳学園大学
岐阜聖徳学園大学短期大学部

CURRICULUM
カリキュラム

Yawaragi Basis - 教養基礎科目 専門分野を学ぶため、基礎力や柔軟性のある思考力を身に付ける科目です。語学や体育のほか、教養を他学部との学生と共に学びます。	各専修の教科専門科目 将来目指す専門分野に合わせて、各専修ごとに、専門的な知識・技術を身に付ける科目が設けられています。	教育の基礎的理解科目等 教育の理念や教員の役割などを学ぶ科目が設けられています。	卒業研究 自らテーマを決め、研究や活動をもとに論文や作品にまとめます。4年間の集大成で、卒業に関わる重要な科目です。
---	--	--	--

区分	1年次	2年次
建学の精神	■ 宗教学Ⅰ・Ⅱ	
共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダー論「私たちを取りまく社会」 岐阜学「岐阜を知る」 数学「みんなの算数」 	<ul style="list-style-type: none"> 現代環境科学「環境と生活を科学する」 哲学「正義について」 数学「データサイエンス入門」 経済学「やさしい経済のしくみ」 数学「生活の中の数学」 天文学「地球と宇宙」
共に支え合う	<ul style="list-style-type: none"> 災害と危機管理「災害とボランティア」 レクリエーション 食生活論「大学生の食と栄養」 	<ul style="list-style-type: none"> 健康科学「笑いと健康」 家族と社会保障「私は生きる」
共に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 基礎セミナーⅠ スポーツⅠ・Ⅱ 日本国憲法 	<ul style="list-style-type: none"> 心理学概論「心の仕組みを考える」 歴史学「社会的世界と歴史」 歴史学「歴史の中の経済」 キャリアプラン「就職とビジネス」 健康科学概論
共に拓く	<ul style="list-style-type: none"> 異文化論「スペイン文化」 異文化論「向こう側にあるものを読み解く」 芸術論「和の芸術（実践編）陶芸」 映画学「映画を楽しむ」 日本文化論「日本文化と礼儀作法」 日本文化論「ことばと文化のむすびつき」 	<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ポルトガル語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ 韓国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ICT基礎

区分	1年次	2年次	3年次	4年次
教育学部 共通科目	<ul style="list-style-type: none"> 学校ふれあい体験 介護等の体験（含事前事後指導） フレンドシップⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実践観察 介護等の体験（含事前事後指導） フレンドシップⅡ 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育 外国人日本語教育と国際理解 学習環境構成と学習指導改革 授業力アップと研究・研修力 学校インターンシップ フレンドシップⅢ 	<ul style="list-style-type: none"> 教師力総合演習 教師コミュニケーション演習 学習環境構成と学習指導改革 授業力アップと研究・研修力 学校インターンシップ フレンドシップⅣ
教育の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> 教育基礎論（幼・小・中・高） 教師論（幼・小・中・高） 教育心理学（幼・小・中・高） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の社会制度論（幼・小・中・高） 発達心理学（幼・小・中・高） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育社会学（幼・小・中・高） 教育行政学（幼・小・中・高） 特別支援教育基礎（幼・小・中・高） 教育課程論（幼・小・中・高） 	
道徳、総合的な学習の時間、生徒指導、教育相談等		<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の指導法（小・中） 特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小・中・高） 生徒・進路指導論（小・中・高） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の方法と技術（幼・小・中・高） 学習資源・教材論（幼・小・中・高） 幼児理解 教育相談（幼・小・中・高） 	
教育実践		<ul style="list-style-type: none"> 保育実習Ⅰ（保育所（園）） 保育実習Ⅰ（児童福祉施設等） 保育実習指導Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育実習（事前事後） ※保育専修 幼稚園教育実習 保育実習Ⅱ（保育所（園）） 保育実習指導Ⅱ 小学校教育実習 保育実習Ⅲ（児童福祉施設等） 保育実習指導Ⅲ 中学校教育実習（事前事後） 中学校教育実習 教職実践演習（幼・小・中・高） 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育実習（事前事後） 幼稚園教育実習 保育実習Ⅱ（保育所（園）） 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ（児童福祉施設等） 保育実習指導Ⅲ 教職実践演習（幼・小・中・高）
学校図書館司書教諭資格を得るための科目			<ul style="list-style-type: none"> 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 	
浄土真宗本願寺派教師資格を得るための科目	<ul style="list-style-type: none"> 真宗史 仏教概論 浄土宗の歴史 浄土宗の宗義 浄土宗の宗制 浄土宗の宗風 浄土宗の宗務 浄土宗の宗門法規 	<ul style="list-style-type: none"> 真宗概論 法語実演 宗教概論・仏教史 		
博物館学芸員資格を得るための科目	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習概論 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館・情報メディア論 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館資料論 考古学 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館実習 博物館教育論

各専修により履修科目は異なります。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次
初等教科専門科目	<ul style="list-style-type: none"> 初等国語（含書写） 初等算数 初等生活Ⅰ 初等図画工作Ⅰ 初等英語 初等体育Ⅰ 初等社会 初等算数 初等英語 初等生活Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 初等理科Ⅰ 初等生活Ⅱ 初等家庭Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 初等音楽Ⅱ 初等図画工作Ⅱ 初等体育Ⅱ 初等理科Ⅱ 	
初等教科指導法	<ul style="list-style-type: none"> 初等教科教育法（理科） 	<ul style="list-style-type: none"> 初等教科教育法（国語／社会／算数／音楽／図画工作／体育／英語） 	<ul style="list-style-type: none"> 初等教科教育法（生活／家庭） 	
保育内容指導法	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容演習（人間関係Ⅰ／表現Ⅰ） 	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容演習（健康Ⅰ／人間関係Ⅱ／環境Ⅰ・Ⅱ／音楽Ⅰ・Ⅱ／表現Ⅱ・Ⅲ） 	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容総論 ※保育専修 	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容総論
中等教科指導法	<ul style="list-style-type: none"> 中等教科教育法Ⅰ（国語／社会・地理歴史／数学／理科／音楽／保健体育／英語） 	<ul style="list-style-type: none"> 中等教科教育法Ⅱ（国語／社会・地理歴史／数学／理科／音楽／保健体育／英語） 中等教科教育法Ⅲ（国語／社会・公民／数学／理科／音楽／保健体育／英語） 	<ul style="list-style-type: none"> 中等教科教育法Ⅳ（国語／社会・公民／数学／理科／音楽／保健体育／英語） 	
国語専修	<ul style="list-style-type: none"> 国語学Ⅰ（音声言語を含む） 国語学Ⅱ（文章表現を含む） 国文学概論Ⅰ・Ⅱ 国文学特講Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 国語学Ⅲ 国語学Ⅳ 漢文学Ⅰ・Ⅱ 書道Ⅰ（書写を中心とする）Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 国語学Ⅴ 国語学Ⅵ 漢文学Ⅲ 書道Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 国文学特講Ⅳ 国文学特講Ⅴ 漢文学Ⅳ
社会専修	<ul style="list-style-type: none"> 日本史概論Ⅰ・Ⅱ 外国史概論Ⅰ・Ⅱ 地誌学Ⅰ・Ⅱ 哲学概論Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 地理学概論 法社会学概論（国際法を含む）Ⅱ 政治学概論Ⅰ（国際政治を含む）Ⅱ 社会学概論Ⅰ・Ⅱ 生物学概論Ⅰ・Ⅱ 倫理学概論Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史特講Ⅰ 地誌学特講 自然地理学 外国史特講Ⅰ 社会学特講 経済学特講 倫理学特講 	<ul style="list-style-type: none"> 日本史特講Ⅱ 外国史特講Ⅱ 自然地理学 政治学特講 経済学特講 倫理学特講
数学専修	<ul style="list-style-type: none"> 代数学序論Ⅰ・Ⅱ 幾何学序論Ⅰ・Ⅱ 位相数学序論 解析学序論Ⅰ・Ⅱ 確率・統計学Ⅰ 位相数学序論 	<ul style="list-style-type: none"> 代数学Ⅰ・Ⅱ 位相数学Ⅰ 幾何学Ⅰ・Ⅱ 確率・統計学Ⅱ 解析学Ⅰ・Ⅱ コンピュータ序論 コンピュータ特講 	<ul style="list-style-type: none"> 代数学Ⅲ 幾何学Ⅲ 解析学Ⅲ 位相数学Ⅱ コンピュータ特講 	<ul style="list-style-type: none"> 代数学特論 幾何学特論 解析学特論
理科専修	<ul style="list-style-type: none"> 物理学Ⅰ 物理学実験Ⅰ（コンピュータ活用を含む） 化学Ⅰ 化学実験Ⅰ（コンピュータ活用を含む） 生物学Ⅰ 生物学実験Ⅰ（コンピュータ活用を含む） 地学Ⅰ 地学実験Ⅰ（コンピュータ活用を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 物理学Ⅱ 物理学実験Ⅱ 化学Ⅱ 化学実験Ⅱ 生物学Ⅱ 生物学実験Ⅱ 地学Ⅱ 地学実験Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 物理学Ⅲ 化学Ⅲ 生物学Ⅲ 地学Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> 物理学実験Ⅲ 化学実験Ⅲ 生物学実験Ⅲ 地学実験Ⅲ
音楽専修	<ul style="list-style-type: none"> ソルフェージュ 声楽Ⅰ（日本伝統歌唱法基礎を含む）Ⅱ 鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む）Ⅱ 音楽理論Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 声楽Ⅲ・Ⅳ 鍵盤楽器演奏Ⅲ・Ⅳ 管楽器演奏Ⅰ 管楽器演奏Ⅱ（伴奏法を含む）Ⅱ 指揮法Ⅰ・Ⅱ 作曲法Ⅰ（編曲法を含む）Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 管打楽器演奏Ⅱ 和楽器演奏Ⅱ 合奏Ⅰ 音楽文化史Ⅰ（日本の伝統音楽及び民族音楽を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 合奏Ⅱ・Ⅲ 管打楽器演奏Ⅲ 和楽器演奏Ⅲ 日本伝統歌唱法長唄演習 音楽文化史Ⅱ 作曲法Ⅱ 合奏Ⅱ
体育専修	<ul style="list-style-type: none"> 中等体育実技Ⅰ（体づくり）Ⅱ（陸上競技）Ⅲ（ゴルフ型）Ⅳ（剣道）Ⅴ（ダンス） 体育学基礎Ⅰ（原理）Ⅱ（心理） 生理学Ⅰ 衛生学・公衆衛生学 	<ul style="list-style-type: none"> 中等体育実技Ⅳ（ベースボール型）Ⅴ（ネット型）Ⅵ（野外活動）Ⅶ（剣道）Ⅷ（ダンス） 生理学Ⅱ 運動生理学 学校保健Ⅰ（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む）Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 中等体育実技Ⅵ（器械運動）Ⅶ（柔道）Ⅷ（運動学（運動方法学を含む）） 	<ul style="list-style-type: none"> 体育学基礎Ⅲ（経営管理・社会学）
英語専修	<ul style="list-style-type: none"> 英語学概論Ⅰ・Ⅱ 英語教育学概論 英語学概論Ⅱ 英語コミュニケーション論 Communicative EnglishⅠ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 第二言語習得論 英文法概説Ⅰ・Ⅱ Intensive ListeningⅠ・Ⅱ Interactive ReadingⅠ・Ⅱ Academic WritingⅠ Advanced Communicative EnglishⅠ・Ⅱ 英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学概論Ⅲ・Ⅳ Academic WritingⅡ Presentation Skills 英語圏の文化と社会Ⅲ Public Speaking 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学演習Ⅰ・Ⅱ
保育専修	<ul style="list-style-type: none"> 幼児と健康 幼児と言葉 幼児と人間関係 子どもと表現 子どもと家庭福祉Ⅰ 社会福祉 保育者論 子どもの保健 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児と環境 子ども家庭福祉Ⅱ 保育原理Ⅰ・Ⅱ 社会的養護Ⅰ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 障害児保育Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 子どもの健康と安全 子どもの食と栄養Ⅰ 保育の計画と評価 社会的養護Ⅱ 子育て支援 幼児と音楽表現 幼児と造形表現 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援論 子どもの食と栄養Ⅱ 幼児教育学 保育問題研究
特別支援教育専修	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育総論 	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害者の心理 知的障害者の生理・病理 知的障害者の教育Ⅰ・Ⅱ 肢体不自由者の教育 障害者の教育 特別支援教育の理論と実践重視・発達 障害者の心理と教育 	<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由者の心理・生理・病理 障害者の心理・生理・病理 肢体・病弱演習 発達障害心理臨床 視覚障害者の心理と教育 言語・聴覚障害者の心理と教育 特別支援学校教育実習（事前事後） 特別支援学校教育実習 	<ul style="list-style-type: none"> 発達アセスメント 特別支援教育・看護合同演習
学校心理専修	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学概論 心理学研究法 心理学統計Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師の職務 心理学統計Ⅱ 心理学実験知覚・認知心理学 学習・言語心理学 感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学 心理学的支援法 健康・医療心理学 教育・学校心理学 精神疾患とその治療 心理演習 心理実習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 神経・生理心理学 心理的アセスメント 福祉心理学 司法・犯罪心理学 	<ul style="list-style-type: none"> 産業・組織心理学 人体の構造と機能及び疾病 関係行動論 データ分析法 心理実習Ⅱ
卒業研究			<ul style="list-style-type: none"> 専門演習Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究 専門演習Ⅲ・Ⅳ

2021年度入学生用のカリキュラムです。

FOCUS ON SEMINAR

ゼミナール紹介

TOEIC®・メディア制作ゼミ



宮原 淳 准教授
Atsushi Miyahara

専門分野：
メディア英語

Profile

一橋大学社会学部卒、ブリティッシュ・コロンビア大学院(ジャーナリズム専攻)修了、中日新聞記者(社会部など)を経て2017年から現職。日本メディア英語学会理事。

自らの勉強方法を書籍にして出版。

このゼミでは、10人以下の少人数でTOEIC®を集中的に勉強します。非ネイティブとしては最高レベルの900点突破をはじめ、全員が数百点のジャンプアップを達成し、教員採用試験や公務員試験合格、ホテル・航空・海運など人気職の就活戦線で実績を上げました。TOEIC®が英語力にとどまらず、継続力、忍耐力など社会

で評価される力だからです。そんな勉強法を出版することが卒業制作です。新聞に掲載され、ランキング上位にも食い込みました。この本には、「自分が勉強に熱中するなんて入学前には想像できなかった」、「大学でやりきるといふ経験ができた」、「切磋琢磨の環境だから伸びた」というゼミ生の思いが溢れています。

English Language Learning



テイラー クレア 准教授
Taylor Clair

専門分野：
TESOL (英語が母国語ではない人への英語教授法)

Profile

カンターベリー・クライストチャーチ大学英語教育修士課程修了、2012年より現職。Independent Learning Association 所属。The Japan Association for Self-Access Learning 会長。

All Englishによる、ペアでの協同学習(ジグソー法)を通じて、「実践力」を磨く。

このゼミでは、「英語学習方法」や「英語教育方法」について取り上げ、研究します。手法としては、アクティブラーニングの1つである「ジグソー法」を用いた協同学習を行っています。同じテーマのテキストを3種類(あるいは1つのテキストを3分割したものを)用意し、割り当てられたテキストをペアで読み込み、

内容を要約し、協同発表を行います。互いに教え合い、体験を共有し、ディスカッションも行うことで、思考力や表現力、プレゼン能力やコミュニケーション力を養う狙いがあります。こうしたやり取りは、All Englishで行われるため、実践的な英語力もおのずと培われます。

CURRICULUM

カリキュラム

Yawaragi Basis - 教養基礎科目 専門分野を学ぶため、基礎力や柔軟性のある思考力を身に付ける科目です。語学や体育のほか、教養を他学部の学生と共に学びます。	専門科目 英語の4技能(聞く・読む・話す・書く)を習得し、語学力・コミュニケーション能力を高めます。さらに、外国事情や異文化研究などのコンテンツを学び、自信を持って国際社会に出るための幅広い知識を身に付けます。	教職課程科目 教員になるための必修科目と選択科目です。中学校教諭一種免許状(英語)と高等学校教諭一種免許状(英語)が取得できます。
--	---	---

区分	1 年次	2 年次
建学の精神	■ 宗教学Ⅰ・Ⅱ	
共に生きる	■ ジェンダー論「私たちを取りまく社会」 ■ 岐阜学「岐阜を知る」 ■ 数学「みんなの算数」	■ 現代環境科学「環境と生活を科学する」 ■ 哲学「正義について」 ■ 数学「データサイエンス入門」
共に支え合う	■ 災害と危機管理「災害とボランティア」 ■ レクリエーション ■ 食生活論「大学生の食と栄養」	■ 健康科学「笑いと健康」 ■ 家族と社会保障「私は生きる」
共に学ぶ	■ 基礎セミナーⅠ ■ スポーツⅠ・Ⅱ ■ 日本国憲法	■ 心理学概論「心の仕組みを考える」 ■ 歴史学「社会的世界と歴史」 ■ 歴史学「歴史の中の経済」
共に拓く	■ 異文化論「スペイン文化」 ■ 異文化論「向こう側にあるものを読み解く」 ■ 芸術論「和の芸術(実践編)陶芸」 ■ 映画学「映画を楽しむ」	■ 日本文化論「日本文化と礼儀作法」 ■ 日本文化論「ことばと文化のむすびつき」 ■ ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
TOEIC®対策講座をはじめとする語学検定対策講座、就職対策講座を通じ将来設計を行う	■ キャリアセミナーⅠ・Ⅱ (初級 TOEIC®) ■ キャリアデザインⅠ	■ キャリアセミナーⅢ・Ⅳ (中級 TOEIC®) ■ キャリアセミナーⅦ(中国語検定4級) ■ キャリアセミナーⅩⅡ (エアライン講座Ⅰ) ■ 英語ボランティア活動 ■ 国内インターンシップ ■ 国際インターンシップ ■ キャリアデザインⅡ	■ キャリアセミナーⅤ・Ⅵ(上級 TOEIC®) ■ キャリアセミナーⅧ(中国語検定3級筆記) ■ キャリアセミナーⅨ(中国語検定3級リスニング) ■ キャリアセミナーⅩⅠ(ドイツ語検定) ■ キャリアセミナーⅩⅢ(世界の経済) ■ キャリアセミナーⅩⅣ(エアライン講座Ⅱ) ■ キャリアセミナーⅩⅤ(企業研究) ■ 企業就職への道	
英語の文法、語彙、4技能(聞く・読む・話す・書く)を習得する	■ English Communication A-B-C-D ■ 英文法Ⅰ・Ⅱ 英作文Ⅰ・Ⅱ ■ 英語リスニングⅠ・Ⅱ ■ 英文読解Ⅰ・Ⅱ ■ 英文法基礎Ⅰ・Ⅱ	■ English Communication E-F ■ English Communication TE-TF ■ Essay WritingⅠ・Ⅱ ■ Media EnglishⅠ・Ⅱ ■ 英文読解Ⅲ・Ⅳ	■ Reading and DiscussionⅠ・Ⅱ ■ Research and PresentationⅠ・Ⅱ ■ Essay WritingⅢ・Ⅳ ■ 英文読解Ⅴ・Ⅵ	■ Selected TopicsⅠ・Ⅱ
進路に応じて必要な知識と技能を習得する	■ 楽しい中国語Ⅰ・Ⅱ ■ ICT活用	■ 教育英語研究Ⅰ・Ⅱ ■ 日本語教育学入門 ■ 日本語教育研究Ⅰ ■ Business CommunicationⅠ・Ⅱ ■ 中国語講読Ⅰ・Ⅱ ■ 中国語文法Ⅰ・Ⅱ ■ 中国語コミュニケーションA-B ■ 情報実務Ⅰ・Ⅱ ■ 小学校英語教育研究Ⅰ・Ⅱ	■ 第二言語習得論Ⅰ・Ⅱ ■ 日本語教育研究Ⅱ・Ⅲ ■ Business CommunicationⅢ・Ⅳ ■ 中国語コミュニケーションC-D ■ 情報実務Ⅲ・Ⅳ ■ 中国語講読Ⅲ・Ⅳ ■ 経済英語Ⅰ・Ⅱ	
専門分野の基礎知識を習得し深める	■ 日本語表現Ⅰ・Ⅱ	■ 言語学入門 ■ 日本語学入門 ■ English LinguisticsⅠ・Ⅱ ■ 英語文学Ⅰ・Ⅱ ■ 日本語学Ⅰ ■ 日本語演習 ■ 日本語教育研究Ⅰ ■ 異文化コミュニケーション ■ 日本語研究Ⅰ	■ 英語学Ⅲ・Ⅳ ■ 英語文学Ⅲ・Ⅳ ■ 日本語学Ⅳ ■ 対訳着語学 ■ 日本語教育研究Ⅱ・Ⅲ ■ 日本語教育方法論 ■ 日本語研究Ⅱ	■ 日本語教育実地研究
世界に関する知識を習得し、異文化を理解する	■ British StudiesⅠ ■ American StudiesⅠ ■ 留学の安全と知識 ■ 留学のための英語 ■ 中国研究Ⅰ ■ イギリス研究Ⅰ ■ アメリカ研究Ⅰ	■ British StudiesⅡ ■ American StudiesⅡ ■ Travel and TourismⅠ・Ⅱ ■ イギリス研究Ⅱ ■ アメリカ研究Ⅱ ■ 中国研究Ⅱ ■ 異文化理解	■ World IssuesⅠ・Ⅱ ■ Japanese StudiesⅠ・Ⅱ ■ American StudiesⅢ ■ British StudiesⅢ ■ イギリス研究Ⅲ ■ アメリカ研究Ⅲ ■ 中国研究Ⅲ	
卒業研究			■ 卒業研究Ⅰ	■ 卒業研究Ⅱ・Ⅲ
留学生・帰国子女対象科目	■ 日本語口頭演習Ⅰ・Ⅱ ■ 日本語総合演習Ⅰ・Ⅱ	■ 日本語口頭演習Ⅲ・Ⅳ ■ 日本語総合演習Ⅲ・Ⅳ		
教職課程科目	■ 中学校・高等学校教員としての知識・指導法を学び、教育力・実践力をつける ■ 教師論(中・高・費)	■ 教育基礎論(中・高・費) ■ 教育心理学(中・高・費) ■ 教育の社会制度論(中・高・費) ■ 教育の社会制度論(中・高・費) ■ 道徳教育の指導法(中・費) ■ 特別活動・総合的な学習の時間の指導法(中・高・費) ■ 中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ(英語) ■ 生徒・進路指導論(中・高) ■ 特別支援教育基礎(中・高・費)	■ 教育課程論(中・高・費) ■ 教育相談(中・高・費) ■ 中等教科教育法Ⅲ・Ⅳ(英語) ■ 介護等の体験(含事前事後指導) ■ 教育の方法と技術(中・高・費)	■ 中学校教育実習(事前事後) ■ 中学校教育実習 ■ 高等学校教育実習(事前事後) ■ 高等学校教育実習 ■ 教職実践演習(中・高)
自由選択科目	■ 学校図書館司書教諭資格を得るための科目 ■ 浄土真宗本願寺派教師資格を得るための科目	■ 真宗概論 ■ 真宗史 ■ 仏教概論 ■ 宗門法規 ■ 動作法実演 ■ 法話実演 ■ 宗教概説・仏教史	■ 学校経営と学校図書館 ■ 学校図書館メディアの構成 ■ 学習指導と学校図書館 ■ 読書と豊かな人間性 ■ 情報メディアの活用	

■: 授業すべてを英語で行うAll English科目です。一部の科目は日本語で同じ内容の授業を行います。 ■: 留学生・帰国子女に適用 2021年度入学生用のカリキュラムです。

FOCUS ON SEMINAR

ゼミナール紹介

ゲーム理論研究ゼミ

プレゼンを通じて理論を理解し、物事の判断力を養う。



オークションや投票など、駆け引きが存在する状況での行動を考察する「ゲーム理論」について学びます。ゼミでは、ゲーム理論の考え方を習得するため、学生全員でテキストを輪読します。学生がレジュメを作り、自分の言葉でプレゼンテーションを行います。自ら考えてプレゼンを行うことで、ゲーム理論の理解を深め、物事に対して論理的かつ有効な判断ができる力を養います。



鈴木 貴晶 准教授
Takamasa Suzuki

専門分野：
ゲーム理論

Profile

オランダ・ティルブルフ大学にて経済学の博士号を取得。2017年4月から本学に赴任。
専門分野は、協力ゲーム理論、マッチング理論など。

証券投資分析研究ゼミ

企業の価値評価を通じて、社会で役立つ調査・分析力を養う。

企業の社会的責任(CSR)と財務面から企業の価値評価や投資分析を行います。自らの問題意識から仮説を立て、企業データを使った調査・分析を通じて解決策を導き出すことで、実社会で求められる問題解決力を磨きます。また、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じ、多様な意見や価値観を尊重して柔軟に対応する力など、社会人基礎力を養います。



浅野 礼美子 准教授
Remiko Asano

専門分野：
コーポレートファイナンス
証券投資分析

Profile

金融機関にて勤務した後、名古屋市立大学大学院経済学研究科にて経済学の博士号を取得。金融知識の普及活動に力を注ぐ。2019年4月から本学に赴任。研究テーマは企業の社会的責任(CSR)、ESG投資など。

知能画像処理研究ゼミ

好奇心と探究心を育み、変化さえ楽しめる柔軟性を備えた人に。



ゼミでは、画像処理・画像認識をテーマに、カメラに映った人や車などの物体を認識する技術やそれを応用した安全運転支援、放送映像解析などを研究しています。自動運転の実現をもたらす画像認識技術や、防犯や入出場管理に欠かせない顔認識技術など、身近に利用される技術を実際に利用して、アプリやシステムを作ることで、興味関心を高め、理解を深めます。



高橋 友和 教授
Tomokazu Takahashi

専門分野：
画像処理、画像認識

Profile

2008年4月から本学に赴任。茨城大学大学院にて工学の博士号を取得。パターン認識、画像処理、メディア理解を研究課題に掲げ、情報処理の観点から経済をひもとく。

CURRICULUM

カリキュラム

Yawaragi Basis - 教養基礎科目

専門分野を学ぶため、基礎力や柔軟性のある思考力を身に付ける科目です。語学や体育のほか、教養を共に学びます。

コース名	経済コース 人間心理と経済を学ぶ	経営コース ビジネスの最前線を学ぶ	情報コース 情報技術の活用を学ぶ	
主な進路	銀行・証券会社・保険会社などの金融機関 地方公務員・警察官・消防士 販売・マーケティング	営業・商品企画 販売・マーケティング 地方公務員・警察官・消防士	IT企業 システムエンジニア	
目指す職業	銀行・証券・保険 公務員 高等学校教育員(商業・情報)	営業職(一般企業) 起業家	営業職(IT)	
1年次	建学の精神	■ 宗教学Ⅰ・Ⅱ		
	Yawaragi Basis - 教養基礎科目 共に学ぶ	■ 基礎セミナーⅠ ■ スポーツⅠ・Ⅱ ■ 心理学Ⅰ・Ⅱ ■ 歴史学Ⅰ・Ⅱ ■ 日本国憲法		
	共に拓く	■ 英語Ⅰ・Ⅱ ■ 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ 英語実務		
	共に生きる	■ 文学Ⅰ・Ⅱ ■ 地理Ⅰ・Ⅱ ■ 数学 ■ 数学活用 ■ 統計入門		
	共に支え合う	■ 法学 ■ 行動科学		
外国語科目	■ 英語Ⅰ・Ⅱ ■ 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ 英語実務			
保健体育科目	■ スポーツⅠ・Ⅱ			
専門必修科目	■ 総合基礎A・B ■ ミクロ経済学入門 ■ マクロ経済学入門 ■ コンピュータ科学基礎			
選択必修科目	■ 経済統計 ■ 経済財政事情 ■ 経済の歴史Ⅰ・Ⅱ	■ ベンチャー企業論 ■ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ ■ 簿記原理Ⅰ・Ⅱ	■ 情報処理Ⅰ ■ マルチメディアⅠ(実習を含む) ■ ウェブ編集 ■ プログラミング基礎(実習を含む)	
選択科目	■ 教理A ■ 地球環境論Ⅰ	■ 教理A	■ 教理A	
教職関連科目	■ 教師論(中・高・養)			
キャリア教育科目	■ 情報実務 ■ 簿記実務 ■ 商業実務 ■ 統計実務			
2年次	Yawaragi Basis - 全学共通科目 共に学ぶ	■ 基礎セミナーⅡ		
	共に拓く	■ 英語Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ ■ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ ■ フランス語Ⅰ・Ⅱ ■ 中国語Ⅰ・Ⅱ		
	外国語科目	■ 英語Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ ■ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ ■ フランス語Ⅰ・Ⅱ ■ 中国語Ⅰ・Ⅱ		
	キャリア教育科目	■ 社会人基礎力養成 ■ キャリアデザインⅠ(必修) ■ インターンシップ(講義)・(実習)		
	選択必修科目	■ ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ ■ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ ■ 現代経済	■ 経営管理論Ⅰ・Ⅱ ■ 経営戦略入門	■ ウェブサービス ■ マルチメディアⅡ ■ ウェブプログラミング(実習を含む) ■ 情報と社会
選択科目	■ 教理B・C ■ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ ■ 地球環境論Ⅱ ■ 経済の現場から ■ グローバル経済論Ⅰ・Ⅱ ■ 途上国開発論 ■ 金融論Ⅰ・Ⅱ ■ ファイナンス論Ⅰ・Ⅱ ■ 地域経済論Ⅰ・Ⅱ ■ 労働経済学Ⅰ ■ 交通論Ⅰ ■ 行動経済学Ⅰ・Ⅱ ■ 民法Ⅰ・Ⅱ	■ 教理B・C ■ 経営戦略論 ■ 商学概論 ■ 流通論 ■ グローバルマネジメント ■ 会計学Ⅰ・Ⅱ ■ 民法Ⅰ・Ⅱ	■ 教理B・C ■ 情報処理Ⅱ ■ 情報処理論 ■ ネットワーク基礎(実習を含む) ■ 民法Ⅰ・Ⅱ	
学際領域科目	■ スポーツ科学 ■ Eコマース論Ⅰ・Ⅱ ■ 生活経済と情報			
教職関連科目	■ 教育基礎論(中・高・養) ■ 教育心理学(中・高・養) ■ 教育の社会制度論(中・高・養) ■ 生徒・進路指導論(中・高) ■ 特別活動・総合的な学修の時間の指導法(中・高・養)			
専門必修科目	■ 専門演習Ⅰ			
選択科目	■ 計量経済学Ⅰ・Ⅱ ■ 労働経済学Ⅱ ■ 交通論Ⅱ ■ 社会科学特論Ⅰ・Ⅱ ■ マクロ経済学Ⅲ ■ ミクロ経済学Ⅲ ■ 環境経済学Ⅰ・Ⅱ ■ 国際経済学Ⅰ・Ⅱ ■ 商法 ■ 会社法	■ 事業経営入門 ■ 事業経営論 ■ 経営分析Ⅰ ■ マーケティング論 ■ マーケティングリサーチ ■ 商法 ■ 会社法	■ オペレーティングシステム ■ クラウドサービスシステム ■ ネットワーク応用 ■ 情報管理 ■ プログラミング応用 ■ データベース ■ 商法 ■ 会社法 ■ シミュレーション	
学際領域科目	■ 実験経済学Ⅰ・Ⅱ ■ 行動ファイナンス ■ データ分析 ■ 地域産業			
キャリア教育科目	■ キャリアデザインⅡ・Ⅲ・Ⅳ			
教職関連科目	■ 教育課程論(中・高・養) ■ 中等教科教育法Ⅰ・Ⅱ(商業・情報) ■ 教育相談(中・高・養) ■ 職業指導 ■ 情報と職業 ■ 教育の方法と技術(中・高・養) ■ 特別支援教育基礎(中・高・養)			
専門必修科目	■ 専門演習Ⅱ			
選択科目	■ 国際金融論 ■ 卒業研究	■ 経営分析Ⅱ ■ 卒業研究	■ ウェブアプリケーション ■ ソフトウェア演習 ■ 卒業研究	
教職関連科目	■ 高等学校教育実習(事前事後) ■ 高等学校教育実習 ■ 教職実践演習(中・高)			

※選択科目はコースを越えて履修できます。

自由選択科目	学校図書館司書 教諭資格を得るための科目	■ 学校図書と学校図書館 ■ 学校図書館メディアの構成 ■ 学習指導と学校図書館 ■ 読書と豊かな人間性 ■ 情報メディアの活用
	浄土真宗本願寺派 教師資格を得るための科目	■ 真宗概論 ■ 真宗史 ■ 仏教概論 ■ 仏教史 ■ 宗教概説 ■ 宗門法規 ■ 勅式作法実演 ■ 法話実演

2021年度入学生用のカリキュラムです。

教育学部

外国語学部

経済情報学部

看護学部

短期大学部

FOCUS ON SEMINAR

ゼミナール紹介



平野 昭彦 教授
Akihiko Hirano

専門分野：
安全で安楽な看護技術の構築、
科学的根拠の確立と立証

Profile

2013年3月から本学に赴任。若手県立大学にて看護学の博士号を取得。研究テーマは基礎看護学、基礎・地域看護学。安全で効果的な気管内吸引など、臨床と関わる実証的な研究を行う。

科学的根拠に基づいた 確かな看護技術を提供する医療人を目指す。

これまで当然だと思われていた看護技術や手法は、研究が進むことでその確かさが明確になることもあります。全く異なる見解が生まれることもあります。例えば、私の研究テーマの1つである「気管吸引時の安全な吸引圧」においても、看護技術書の記載にも、根拠となる研究にも不確かな部分があり、さらに検討を重ねなければなら

いことが明らかになりました。臨床での安全性を突き詰めることで、より一層安全で安楽な看護技術の確立につながり、医療現場に還元することが可能です。臨床実習などの体験を通じて、それぞれが関心の持てる研究テーマを選び、文献研究を深め、卒業後も探求心を持ち続ける医療従事者としての成長を期待します。



上田 ゆみ子 准教授
Yumiko Ueda

専門分野：
コミュニケーション技術
フィジカルアセスメント

Profile

看護学部の開設当初から専任講師を務め、2019年4月から准教授に。看護学生に必要なコミュニケーション技術や臨床におけるフィジカルアセスメントなどについて研究を行っている。

他者を理解するための 非言語コミュニケーションを学ぶ。

看護に必要なコミュニケーション技術について学びます。コミュニケーションは他者と関わるうえで非常に重要です。看護学部ではいずれの科目においても意識的にコミュニケーションについて指導し、看護の場において相手の気持ちを非言語コミュニケーションで汲み取れる人を目指します。ゼミでは主に卒業研究の個別指導

を行います。患者さんに使う言葉は標準語と方言のどちらがいいのか、言葉が発するのが難しい患者さんどうコミュニケーションを取ればいいのかなど、学生自身が興味を持ったテーマについて「共に考える」ことを念頭に置きながら指導し、学生が納得できるまでディスカッションしながら学びを深めていきます。

CURRICULUM

カリキュラム

Yawaragi Basis - 教養基礎科目 専門分野を学ぶため、基礎力や柔軟性のある思考力を身に付ける科目です。語学や体育のほか、教養を他学部の学生と共に学びます。	専門基礎科目 (人体の構造と機能)(疾病の成り立ちと回復促進)(人間理解)(社会と健康支援)の科目区分で看護学を学習するための前提となる知識や技術、態度を学びます。	専門科目 患者さんの年齢や病気の種類により、7つの専門分野「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「在宅看護学」と「看護の統合」「公衆衛生看護学」を学びます。	教職課程科目 看護教諭になるための科目です。選択制で看護教諭一種免許状が取得できます。
--	--	---	---

区分	1年次	2年次	
建学の精神	■ 宗教学Ⅰ・Ⅱ		
Yawaragi Basis・教養基礎科目	共に生きる	■ ジェンダー論「私たちを取りまく社会」 ■ 岐阜学「岐阜を知る」 ■ 数学「みんなの算数」	■ 現代環境科学「環境と生活を科学する」 ■ 哲学「正義について」 ■ 数学「データサイエンス入門」
	共に支え合う	■ 災害と危機管理「災害とボランティア」 ■ レクリエーション ■ 食生活論「大学生の食と栄養」	■ 健康科学「笑いと健康」 ■ 家族と社会保障「私は生きる」
	共に学ぶ	■ 基礎セミナーⅠ ■ スポーツⅠ・Ⅱ ■ 日本国憲法	■ 心理学概論「心の仕組みを考える」 ■ 歴史学「社会の世界と歴史」 ■ 歴史学「歴史の中の経済」
	共に拓く	■ 風文化論「スペイン文化」 ■ 風文化論「向こう側にあるものを読み解く」 ■ 芸術論「和の芸術(実践編)陶芸」 ■ 映画学「映画を楽しむ」 ■ 日本文化論「日本文化と礼儀作法」 ■ 日本文化論「ことばと文化のむすびつき」	■ 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ ポルトガル語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ 中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ ■ 韓国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ
		■ 経済学「やさしい経済のしくみ」 ■ 数学「生活の中の数学」 ■ 天文学「地球と宇宙」	
		■ キャリアプラン「就職とビジネス」 ■ 健康科学概論	
		■ ICT基礎	
		■ 基礎セミナーⅡ	
		■ 英語コミュニケーションⅢ・Ⅳ ■ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ ■ フランス語Ⅰ・Ⅱ ■ 中国語Ⅰ・Ⅱ	

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	
専門基礎科目	人体の構造と機能	■ 解剖生理学Ⅰ ■ 解剖生理学Ⅱ ■ 解剖生理学Ⅲ	■ 生化学 ■ 栄養学		
	疾病の成り立ちと回復促進	■ 微生物学 ■ 現代医療論(感染・免疫を含む) ■ 薬理薬剤学	■ 現代医療論 ■ 病態治療学Ⅰ ■ 病態治療学Ⅱ		
	人間理解	■ 生涯発達論 ■ コミュニケーション論	■ 看護の対象理解論 ■ 家族社会学	■ 東洋医学 ■ 代替療育療法	
	社会と健康支援	■ 多職種連携論	■ 公衆衛生と法規 ■ 保健統計学 ■ 疫学 ■ 保健医療福祉行政論	■ クリニカルコミュニケーション ■ 臨床心理学	
専門科目	基礎看護学	■ 看護学概論 ■ 生活援助技術論 ■ 生活援助技術演習	■ フィジカルアセスメント ■ 基礎看護学実習Ⅰ	■ 診療援助技術論 ■ 診療援助技術演習 ■ 基礎看護学実習Ⅱ ■ 看護過程	■ 看護倫理
	成人看護学			■ 成人看護学概論 ■ 成人看護学援助論Ⅰ	■ 成人看護学援助論Ⅱ ■ がん看護援助論 ■ 成人看護学実習
	老年看護学			■ 老年看護学概論 ■ 老年看護学援助論Ⅰ ■ 老年看護学実習Ⅰ	■ 老年看護学援助論Ⅱ ■ 老年看護学実習Ⅱ
	小児看護学			■ 小児看護学概論 ■ 小児看護学援助論Ⅰ ■ 小児看護学援助論Ⅱ ■ 小児看護学実習Ⅰ	■ 小児看護学援助論Ⅲ ■ 小児看護学実習Ⅱ
	母性看護学			■ 母性看護学概論 ■ 母性看護学援助論Ⅰ	■ 母性看護学援助論Ⅱ ■ 母性看護学実習
	精神看護学			■ 精神看護学概論 ■ 精神看護学援助論Ⅰ	■ 精神看護学援助論Ⅱ ■ 精神看護学実習
	在宅看護論			■ 在宅看護概論	■ 在宅看護援助論 ■ 在宅看護論実習
	看護の統合				■ 研究の基礎 ■ 海外研修
	公衆衛生看護学		■ 公衆衛生看護学概論 ■ 看護概論	■ 公衆衛生看護学活動展開論Ⅰ ■ 学校保健 ■ 健康相談活動	■ 卒業研究 ■ 特別支援教育・実践演習 ■ 看護合同演習 ■ 看護管理論 ■ 災害看護論 ■ 国際看護論 ■ 看護教育論 ■ SPP技術指導演習
	教職課程科目	■ 教師論(中・高・養)	■ 教育の社会制度論(中・高・養) ■ 教育基礎論(中・高・養) ■ 道徳教育の指導法(中・養) ■ 教育心理学(中・高・養) ■ 特別活動・総合的な学習の時間の指導法(中・高・養)	■ 教育課程論(中・高・養) ■ 教育の方法と技術(中・高・養) ■ 生徒指導論 ■ 教育相談(中・高・養) ■ 特別支援教育基礎(中・高・養)	■ 看護教諭実習 ■ 教職実践演習(養護教諭) ■ 看護教諭実習(事前事後)
自由選択科目	■ 真宗史 ■ 仏教概論 ■ 宗教学概論	■ 宗門法規 ■ 勅式 ■ 布教法	■ 真宗概論 ■ 仏教史		

2021年度入学生用のカリキュラムです。

教養教育委員会規程

制定 平成27年4月1日

(目的)

第1条 岐阜聖徳学園大学（短期大学部を含む。）に、教養教育委員会（以下「委員会」という。）を置き、教養教育「Y a w a r a g i B a s i s」の推進を図ることを目的とする。

(任務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事項を行う。

- (1) 教養教育カリキュラムの研究・開発に関すること
- (2) 教養教育担当教員（非常勤講師を含む。）の選考に関すること
- (3) 教養教育の授業編成に関すること
- (4) 教養教育の調査・分析・統計に関すること
- (5) 教養教育の点検・評価に関すること
- (6) その他教養教育に関すること

(構成)

第3条 委員会は次の者をもって構成する。

- (1) 学長が指名する教育職員 1名
- (2) 各学部（短期大学部を含む。）選出の教育職員 5名
- (3) 教務部長
- (4) 羽島教務課長、岐阜教務課長

(運営)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充て、副委員長は委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 4 その他委員長が必要と認めた時は、委員以外の者の出席を求めることができる。

(定足数)

第5条 委員会の定足数は、構成員の3分の2とする。

(議決)

第6条 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、評議会において行う。

(幹事)

第9条 委員会の記録その他の事務は、羽島教務課・岐阜教務課が担当する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

全学教務委員会規程

一部改正 平成27年4月1日

(目的)

第1条 岐阜聖徳学園大学（短期大学部を含む。）に全学教務委員会（以下「委員会」という。）を置き、教務に関する全学的事項を審議することを目的とする。

(構成)

第2条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学部教務委員長 5名
- (3) 各学部教務副委員長 5名
- (4) 羽島教務課長、岐阜教務課長

(運営)

第3条 教務部長は、委員会の委員長となり、副委員長は、委員の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

4 委員会は、必要に応じて委員以外の教育職員・事務職員の出席を求めることができる。

(定足数)

第4条 委員会の定足数は、構成員の3分の2とする。

(議決)

第5条 委員会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(幹事)

第6条 委員会の記録その他の事務は、羽島教務課・岐阜教務課が担当する。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日をもって、教務委員会規程（平成10年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日をもって、教務連絡協議会規程（平成12年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は平成27年4月1日から施行する。

数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム 取組概要



目的

「数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム」では、学生生活や卒業後の社会生活において、数理・データサイエンス・AIを道具として活用し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

学修成果

日常生活や仕事現場において数理・データサイエンス・AIを道具として活用する能力、統計データや統計グラフを正しく解釈し、データ分析に役立てる能力を身に付けることができる。

科目構成

全学部選択科目（2単位）

教育学部

外国語学部

看護学部

経済情報学部

数学「データサイエンス入門」

統計入門

データサイエンス・AIに触れることで興味・関心を持つ。
統計データや統計グラフを正しく解釈しデータ分析に役立てる力を身に付ける。

導入

基礎

心得

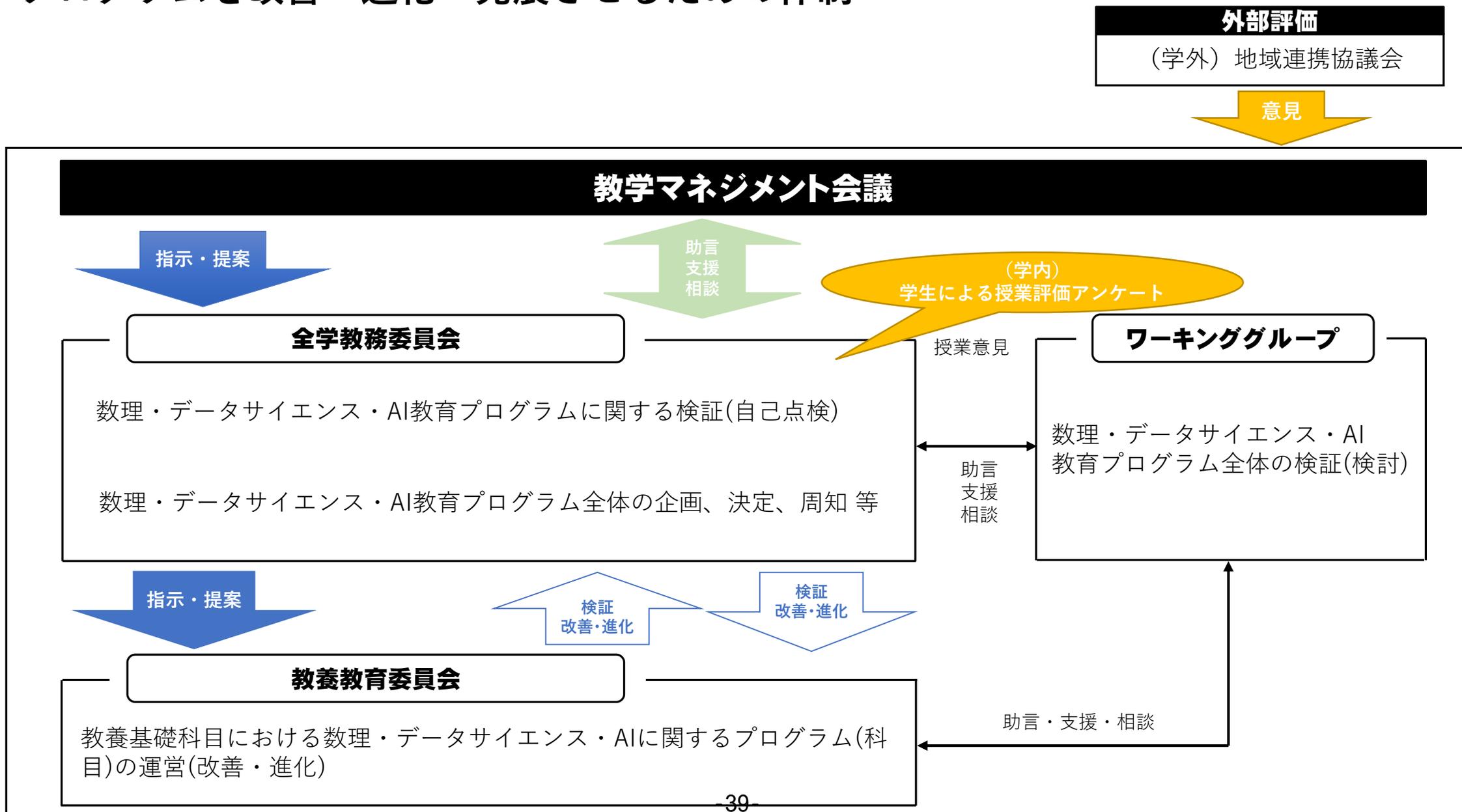
※修了要件：教養基礎科目『数学「データサイエンス入門」（2単位）』又は『統計入門（2単位）』計2単位を取得すること。

プログラム 内容

- 第4次産業革命やSociety5.0、データ駆動型社会など、現在起こっている社会の変化について、その歴史や背景について学び、ビッグデータの活用事例を通して、データ駆動型社会におけるデータサイエンスの必要性について学ぶ。
- 政府が公開する統計データなどを用いた演習を通してデータの取得や加工の方法について学び、マーケティングサービスにおけるデータの利活用事例から、データの利活用が日常生活の課題を解決するツールとなることを学ぶ。
- 単回帰分析やベイズ推論などのデータ分析手法について学び、応用事例として需要予測を取り上げ、データ分析がマーケティングなど様々な分野に応用できることを学ぶ。
- データ活用の負の側面や、世界で策定が進められているデータ保護規則、データ活用で考慮すべき倫理的・法的・社会的課題について学び、情報セキュリティに関して、プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。

補足資料①

プログラムを改善・進化・発展させるための体制



補足資料②

岐阜聖徳学園大学数理・データサイエンス・AI教育 自己点検・評価システム

全学教務委員会

ワーキンググループ

Plan:

数理・DS・AI教育プログラムの企画、決定、周知

Action:

Check(検証)内容を踏まえてプログラム全体の点検・評価

教養教育委員会

ワーキンググループ

Plan:

数理・DS・AI教育プログラム(授業に関する内容)の運営計画

Action:

Check(検証)内容を踏まえてプログラムを構成する科目の改善、新たなプログラムの提案

教員から学生へ
数理・データサイエンス・AI教育

Do:

授業の実施
授業評価アンケートの実施

全学教務委員会

ワーキンググループ

教養教育委員会

ワーキンググループ

Check:

プログラムの検証

- ・(学内)学生による授業評価アンケート結果
- ・(学外)地域連携協議会での産業界等からの意見聴取

